



今回は、国際貢献活動の第二弾、教育支援ボランティアについての報告です。

◇ 小学校の国際・日本語教室、初期適応指導教室でボランティアに参加しました。

日時：平成29年9月29日(金) 8:30 ~ 14:30

場所：美濃加茂市立古井小学校 国際・日本語教室、のぞみ教室(初期適応指導教室)
美濃加茂市立太田小学校 国際・日本語教室

参加者：2年生の希望者9名

目的：外国につながる子どもたちを対象とした教育支援活動にボランティアとして参加し、国際理解・多文化共生について実践的に学ぶ。

協力：美濃加茂市立古井小学校、太田小学校 美濃加茂市教育委員会

- 今年も2年生の有志9名が、美濃加茂市内の小学校に出かけました。外国につながる子どもたちに漢字やひらがな、かたかな、算数を教える教育活動に、ボランティアとして参加するためです。
- 美濃加茂市は人口の約8%が外国人。小学校や中学校には、ブラジルやフィリピンなど、外国につながる子どもたちが多く在籍しています。
- 来日直後の子どもたちの中には、日本語が全く分からない子、日本の生活習慣がわからない子もいます。美濃加茂市はそうした子どもたちのために、初期適応指導教室(のぞみ教室)を設けています。市内の各小学校には国際・日本語教室があり、子どもたちはこの教室で日本語や算数の個人指導を受けています。
- 多文化共生とダイバーシティが美濃加茂市の魅力。日本人と外国人が分け隔てなく、安心して快適に生活できるよう、多文化共生推進プランが策定され、街づくりが進められています。
- 美濃加茂市では今年の3月、市に対して政策提言を行うための若者委員会が発足。多文化共生についても取り組んでいます。メンバーには、関校卒の大学生も参加しています。
- 多文化共生に向けた取り組みや現状について知りたい。外国につながる子どもたちと接し、実践的に学びたい。9名の生徒がボランティアにチャレンジしました。
- 勉強や遊びを通じて、わずかな時間でしたが、子どもたちと触れ合うことができ、貴重な経験を積むことができました。関係者の皆様方、ありがとうございました。



写真上段：古井小学校
中断：太田小学校
下段：のぞみ教室

参加した生徒の感想

<のぞみ教室>

- 私は今回、のぞみ教室で日本に来たばかりの外国人の子たちと勉強して、言葉が通じる楽しさを実感しました。のぞみ教室では日本に来て間もない外国人の子どもたちがたくさんいて、ほとんど日本語が話せない子が多かったのですが、簡単な英語やジェスチャーを使って、分かってくれたときは嬉しかったです。また、子どもたちも、熱心に勉強に取り組んでくれたのでやりがいがありました。

もう一つ印象に残ったのは、昼休みに、国籍も年齢も関係なくみんなで外で遊んでいたことです。私は今、SGHの課題研究でLGBTについて取り組んでいるのですが、少数派であるという点で、LGBTの人々と外国人の子どもたちは共通していると感じました。のぞみ教室の子どもたちのように、日常生活の様々な場面で、少数派の人たちがもっと暮らしやすくなるにはどのような支援が必要なのか考えていきたいです。

- 今回私がこの活動に参加しようと思ったのは、外国の子どもと関わってみたいと思ったからです。そして今日、教師という職業に対する私の見方が少し変わりました。私の両親はどちらも教師で、母は美濃加茂の他の小学校で外国からきた児童のクラスをもっています。両親は朝早くに家を出て帰宅も遅いです。土日も仕事でいない時があります。だから今まで教師以外の仕事に就きたいと思っていました。今回実際に小学校で1対1で指導をしてみて、日本語があまり分からない子に新しい知識を教えることはとても難しかったです。でも分かりやすく伝えるように考えて教えて、その子が問題に正解した時すごく嬉しかったです。そして、子供たちはいつも笑顔でとてもかわいかったです。

教師という職業はとても大変なことが多いと思いますが、その中で今日私が感じたように、うれしさとか楽しさとか、この仕事についてよかったというような、とても誇りを持つるすばらしい職業だなと思いました。そしてこの仕事に今まで以上に興味をもちました。また、私は英語とか外国が好きなので外国につながるようなことを将来してみたいと思いました。



- 私は、今回の体験を通して今まで実感することができなかったことを感じ、学ぶことができました。私は、人に教えることがあまりうまくなく、教師という職業に興味を持ったことはあるけど、教師になりたいなど思ったことは一度もありませんでした。しかし、今回ののぞみ教室の子どもたちと関わり、人に教えることや子どもと関わることの楽しさを知り、教師という職業の良さを感じました。また、人と関わることの大変さも感じました。

今回の体験で一番心に強く残っていることは、子どもと1体1で算数や国語を教えたことです。私にとって、初対面の子に教えるということはとても難易度が高いことでした。なぜなら、「うまく教えられるかなあ？」という不安もあったけど、「日本に来て間もない子に初対面の私を直ぐに受け入れてもらえるのかなあ？」という思いがとても強かったからです。

しかし、いざ授業が始まると子どもたちは直ぐに私のことを名前で読んでくれて、私はとても嬉しい気持ちになり、安心して教えることが出来ました。また、勉強を教えることはとても難しいことだと思いました。普段何気なく使っている平仮名や片仮名をじっくり考えると、分からなくなることもあり、日本人として恥ずかしく思う部分もありました。日本人の私でも日本語に対して欠けている部分があり、言葉の難しさを感じているのに、外国人の子どもたちが一生懸命日本語を勉強する姿を見て本当に凄いなあと感じました。私も世界のグローバル化に対応するために、多くのことを学ばなければいけないと思います。今回のSGH企画は、私にとってとても貴重な体験となり、普段の学校生活だけでは学ぶことができないとても素晴らしいことだと思いました。自分の今までの知識や経験を生かす場があまりなかったので、今回このような場で発揮することができてよかったです。このような体験に参加できたことがとても嬉しいです。また、子どもたちから元気なパワーを沢山もらいました！

<太田小学校>

■ 今回参加してみて感じたことは、素直で一生懸命日本語を勉強している子が多いなということです。まだ完璧じゃない日本語を使いながら話している姿は本当に可愛かったです。校内を回りながら話を聞く中で驚いたことが、文化の違いなどがあって出来ないことがある子がいるという話です。そのあたりをどうやって先生たちがサポートするかによって、他のみんなの考え方とかが決まってくるので、先生たちは大変だなと思いました。小・中学校の時は本当にたくさんの外国人の子と関わりました。言葉や習慣の壁があったせいか、静かにしている子が多かったので どうやってしゃべりかけていいかわからない時がありました。でも今日行ったら、みんなから話しかけてくれて本当に嬉しかったです。今回参加してみて、いろいろなことを知ることができたので、今後のSGHの活動に活かして行きたいです。



■ 太田小学校に国際教室の教育支援に行き、印象に残ったことは、先生方が児童一人ひとりに対して丁寧に接していることです。分かりやすく、かつ、面白く指導しているところがすごいと思いました。また、児童が真面目に学習に取り組んでいることも、印象に残りました。児童の中には日本語が流暢な子やそうでない子がいたのですが、皆、難しい漢字や用語を覚えており驚きました。素直で明るくよく話しかけてくれるよい子たちばかりでした。昼休みでは国籍関係なく、皆で楽しんでおり国籍の壁は無いように感じられました。生徒一人ひとりの配慮が多い小学校だからこそだと思います。太田小学校に、外国につながる児童が多い理由が分かった気がしました。この様に今回の活動で得たことを、友人や同級生に教えたり、将来に生かせるようにしたいと思います。

- 私が外国の子供達と交流して一番印象的だったのは、日本語が分からなくても一生懸命コミュニケーションをとろうと努力する姿です。自分の伝えたいことがうまく言えない時は、ポルトガル語の辞書を使って調べたりして、どうにかして伝えようとしていました。逆に、相手の言っている意味が分からない時には、何回も先生に質問したりして、理解しようとしていました。また、中には新しく覚えた日本語を、訳と一緒にノートにまとめて自分だけのノートをつくっている子もいて驚きました。私の小中学校にも外国の子はいたけれど、コミュニケーションをとる場面はあまりなかったので、当時は分からなかった外国の子供たちの苦労や国際教室での勉強の様子などを知ることができてよかったです。他にも、外国の子を含めた多くの子供たちが積極的に話しかけてくれたり、休み時間には遊びに誘ってくれたりして、とても楽しい時間を過ごせました。小学校での活動を通して、多くのことを学びました。今回は、貴重な体験ができて本当によかったです。

<古井小学校>

- 外国の子どもたちと接してみて、日本人との違いを感じました。授業中、歌を歌っていたり、落ち着きがなかったりしていました。その一方で、わからないところがあると先生を呼んだり、手を挙げたりして積極的に質問していて、日本語を理解したいという意欲的な姿が見られました。先生の説明でわからないところがあると、母国語で教え合う姿があり、助け合っていることがわかりました。私も教えたり、採点したりしましたが、私の説明を理解してくれて、ひとりの男の子に、「僕の先生だったらよかったのに、もっとここにいてほしい」と言われました。私はすごくうれしかったです。私も楽しく参加できました。古井小学校に行けてとてもよかったです。



- 今回、このような貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。すごく楽しく良い体験となりました。実際に参加し、いくつか気づいた点があります。親の事情で転校することが多かったり、言葉の壁など理由で日本人との交流が難しかったりする中で、日本の子どもとブラジルの子供が普通に仲良くしている場面を見かけました。学習意欲や能力を高めるために大切なことは、一緒に頑張れる友人がいることだと思いました。だから、SGH課題研究では、もっとその点を深めていけたらいいなと思います。

- 外国の子どもたちの教育支援ができて楽しかったし、久しぶりに小学生とふれ合うことで、一人ひとりの個性に順応して対応していくことの難しさを学びました。担当の先生とお話をさせていただく中で、今、児童の人数に対しての教員の人手不足が問題となっていることがわかりました。また、言葉の壁などの様々な事情で、情緒不安定となる子、集中力が欠ける子がいるとのことでした。しかし、普通のクラスではあまり自分を出せない分、国際教室では、多くの人とコミュニケーションをする子が多いと知って、国際教室が外国の子どもにとって「安心できる場」になっているなと感じました。だから、古井小みたいな取り組みを日本でもっと多く行っていけば、日本に住んでいる外国人が暮らしやすくなるのではないかと思います。とても、貴重な良い体験ができました。ありがとうございました。